

平成 1 0 年度試験研究成果

区 分	普 及	題 名	県北沿岸地域におけるトルコギキョウの抑制作型		
〔要約〕 県北沿岸地域でのトルコギキョウの作型は、1～3月播種、8～9月出荷が中心であるが、単価が低い傾向にあった。そこで、県北沿岸地域における冷涼な気象を生かした10～11月出し作型を検討した。自然育苗下で5月上・中旬に播種し、定植後も電照開始までは自然日長下で高品質の切り花生産が可能である。					
キ - ワ - ド	トルコギキョウ	県北沿岸地域	抑制作型	県北農業研究所 産地育成研究室	

1．背景とねらい

気象等の制約条件が多い県北沿岸部の農業の活性化を図るため、地域の立地特性を活用する現地実証的研究を行い、産地育成のための「花と野菜の郷づくり産地育成事業」を実施した。

県北沿岸地域でのトルコギキョウの作型は、1月～3月播種、8～9月出荷のタイプが多い。しかし、この時期の出荷は全国的に生産量も多く、他産地との競合により単価が低い傾向にある。そこで、他の産地では育苗期及び定植後の生育期が高温期にあたることからロゼット化等により良品生産が困難であり、逆に、県北沿岸地域では高品質切り花の生産が可能で、5月上・中旬播種、10月～11月出荷を実証した。

2．技術の内容

- (1) 県北沿岸地域におけるトルコギキョウの作型において、F₁ 早生品種、F₁ 中生品種を用い、5月上・中旬に播種する組み合わせを行うと、10月～11月の出荷体系が可能である(表1、2)。
- (2) この作型では、育苗中の短日処理や低温(冷房、夜冷)処理を行わなくとも、自然条件下でのロゼット株の発生はみられない(表1、2)。
- (3) さらに、この作型では生育後半の電照開始時期まで自然日長条件下で、おおむね草丈70cm以上の切り花生産が可能である(表1、2、3)。

3．普及上の留意事項

- (1) セル成型育苗については、平成8年度指導上の参考事項「トルコギキョウのセル成型育苗法」に沿って、良苗を生産する。
- (2) この作型では、開花・収穫時期が10月～11月の低温にあたるので、9月以降ハウス内温度を15℃に保つよう加温する。
- (3) 併せて、この作型では開花時期が10月～11月の短日条件となるので、有効花蕾数を増加し品質を向上させるため、9月上旬から中旬までは電照装置による深夜2時間、9月下旬～11月は深夜4時間の暗期中断方式による長日処理を行う。
- (4) F₁ 中生品種の中には、収穫時期が11月末から12月になる品種もあり、暖房コストがかさむので、品種選定には留意する。
- (5) 定植後の活着促進及びハウス内気温を低下させるため、定植時～8月上旬まで遮光率50%程度の遮光資材をハウス屋根上部に被覆する。
- (6) 育苗中あるいは定植後における日中高温時のハウス開放には特に留意する。
- (7) 暖房期間に入るとハウスを締め切ることが多く、灰色かび病等の発生要因となるので、日中、ハウス内の空気の入れ換えに努める。

4．技術の適応地帯

県北沿岸地帯

5．当該事項に係る試験研究課題

- 〔花き1〕-2-(1)-ア やませ地帯に適応した花き品目の省力安定生産技術の開発(久慈市)
 (ア) トルコギキョウの長期収穫体系の確立

6．参考文献

- (1) 平成8年度 指導上の参考事項 「トルコギキョウのセル成型育苗法」
- (2) 平成9年度 試験研究成果 「短日処理による10月出しトルコギキョウの品質向上技術」
- (3) 平成9年度 花き試験研究成績概要集 農林水産省 野菜・茶業試験場編

7. 試験成績の概要

表1 5月1日播種における品種別切り花品質 平成9年度

調査場所	品 種 名	定植時期 (月・日)	採花期		切り花長(指数) 花長(cm)	1番花節数(節)	有効花蕾数			切り花重(g)	茎径(mm)	吐率(%)
			始め(月・日)	盛期(月・日)			開花(個)	蕾(個)	合計(個)			
久慈市 宇部町	あずまの粧(早生)	7・16	10・12	10・19	89.8(146)	6.7	3.4	7.0	10.4	98.9	7.1	0.0
	はまの雪(早生)	7・16	10・14	10・19	70.8(131)	8.0	3.1	5.0	8.1	67.5	5.6	0.0
	あすかの粧(中生)	7・16	10・16	10・23	91.9(152)	9.5	1.8	4.6	6.4	97.3	7.4	0.0
	あすかの紅(中生)	7・16	10・19	10・23	70.6(135)	9.0	2.5	7.0	9.5	79.2	6.8	0.0
軽米町	あずまの粧(早生)	7・07	9・18	9・25	61.6(100)	6.4	2.3	3.1	5.4	36.5	4.1	5.0
	はまの雪(早生)	7・07	9・28	10・05	54.1(100)	6.7	2.2	7.4	9.6	42.0	4.0	0.0
	あすかの粧(中生)	7・07	9・30	10・05	60.3(100)	8.1	2.0	5.7	7.7	50.6	4.5	0.0
	あすかの紅(中生)	7・07	9・29	10・03	52.3(100)	7.3	2.2	4.0	6.2	38.8	4.3	0.0

両調査場所とも自然育苗、定植後も電照開始まで自然日長

表2 5月15日播種における品種別切り花品質 平成10年度

調査場所	品 種 名	定植時期 (月・日)	採花期		切り花長(指数) 花長(cm)	1番花節数(節)	有効花蕾数			切り花重(g)	茎径(mm)	吐率(%)
			始め(月・日)	盛期(月・日)			開花(個)	蕾(個)	合計(個)			
久慈市 宇部町	あずまの粧(早生)	7・14	10・29	11・04	77.4(136)	8.5	1.9	2.8	4.7	68.5	5.7	0.0
	あずまの小椿(早生)	7・14	11・03	11・18	88.1(124)	8.4	2.0	3.6	5.6	68.7	5.4	0.0
	あすかの波(中生)	7・14	10・20	10・25	72.6(121)	9.6	1.9	2.8	4.7	61.9	5.6	0.0
	あすかの粧(中生)	7・18	11・03	11・15	76.4(137)	9.7	2.0	1.9	3.9	65.2	6.1	0.0
	あすかの小桜(中生)	7・14	12・05		(94.3・123)	(12.4)	(1.6)	(5.0)	(6.6)	(94.3)	(6.9)	0.0
軽米町	あずまの粧(早生)	7・17	10・14	10・24	56.8(100)	7.4	3.0	2.1	5.1	50.8	4.7	10.0
	あずまの小椿(早生)	7・17	10・14	10・21	71.1(100)	6.5	3.0	2.3	5.3	50.1	4.9	0.0
	はまの雪(早生)	7・17	10・29	11・09	59.9(100)	8.3	3.6	3.2	6.8	45.3	4.2	7.5
	あすかの粧(中生)	7・17	10・29	11・03	55.9(100)	9.8	3.3	2.7	6.0	49.4	4.9	15.0
	あすかの小桜(中生)	7・17	11・16	11・17	76.6(100)	10.3	2.1	3.1	5.2	63.5	5.7	2.5
軽米町 (夜冷育苗)	あずまの粧(早生)	7・24	11・06	11・16	69.9(123)	7.6	2.9	3.7	6.6	56.1	5.0	2.5
	あずまの小椿(早生)	7・24	11・06	11・14	84.5(119)	7.5	2.8	3.6	6.4	52.9	5.0	0.0
	はまの雪(早生)	7・30	11・16	11・25	63.9(107)	8.5	2.3	4.1	6.4	49.6	4.6	0.0
	あすかの粧(中生)	7・24	11・06	11・16	70.9(127)	8.9	2.6	3.4	6.0	53.8	5.4	2.5
	あすかの小桜(中生)	7・24	11・26		(82.4・108)	(10.4)	(2.4)	(2.6)	(5.0)	(61.9)	(5.7)	0.0

軽米町夜冷育苗区以外は自然育苗。定植後は電照開始まで全区自然日長
平成10年は8～9月に3度のハウス冠水被害のため、花蕾数が少ない。

表3 定植地の違いによる切り花品質の差 平成10年5月1日播種

調査場所	品 種 名	定植時期 (月・日)	採花期		切り花長(指数) 花長(cm)	1番花節数(節)	有効花蕾数			切り花重(g)	茎径(mm)	吐率(%)
			始め(月・日)	盛期(月・日)			開花(個)	蕾(個)	合計(個)			
久慈市 宇部町	あずまの粧(早生)	7・13	10・20	10・22	76.0(105)	11.0	1.3	3.8	5.1	58.5	5.7	0.0
	あすかの粧(中生)	7・14	10・22	10・27	78.5(119)	9.5	1.7	3.1	4.8	61.3	5.5	0.0
軽米町	あずまの粧(早生)	7・17	10・13	10・23	72.6(100)	6.7	2.9	2.4	5.3	39.7	4.2	5.0
	あすかの粧(中生)	7・17	10・20	10・29	65.8(100)	8.0	4.0	3.0	7.0	43.9	4.4	0.0

育苗地：久慈市宇部町；自然育苗
定植後は電照開始まで自然日長

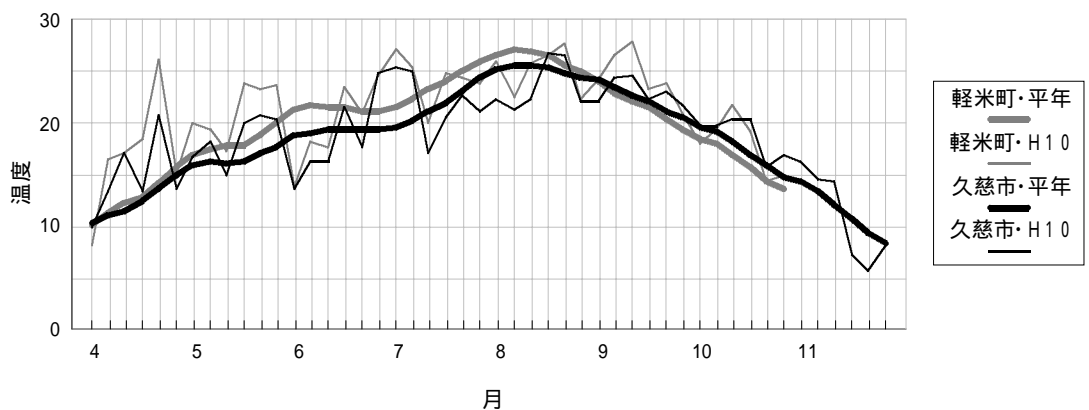


図1 久慈市・軽米町の気象経過図(最高気温)